

氷のペーター

「いたずら絵草紙」 1864年

Wilhem Busch: Eispeter

aus "Bilderpossen"



薪は少なく おまけにひどく寒かった 12年の冬のこと
誰もが家で冬ごもり
でも、ペーターはどうしても 氷の上で遊びたい。



信じられないことだけど
木から死んだカラスが
落ちてくる



森番のおじさん、注意する
「こらペーター、今日はだめだ
ぞ、帰りなさい」



道の脇に立ってるウサギ
耳まで凍ってカチカチだ



トゥラリトゥラと ローズみ
石の上に 腰おろす



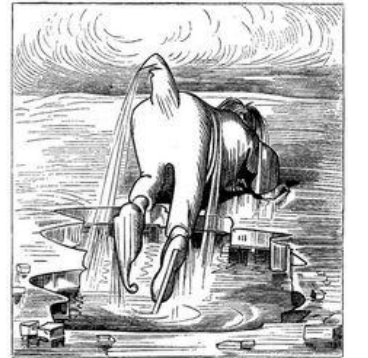
立ち上がろうとしたけれど
ズボンが石にくっついた



布地は古い 気ははやる
なんとか 体を引き離す



まったく! こうなると思ったよ
ふかーい穴に落ちちゃった



帽子は なくしてしまったが
ペーター 水からはい出した



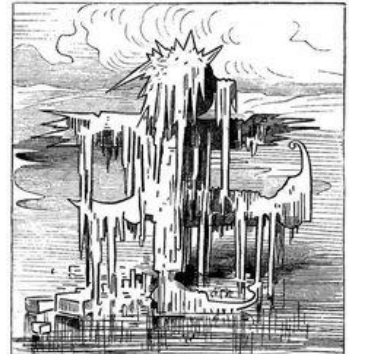
まだ短いが 鼻先に
生えてきたよ ギザギザ氷



どんどん伸びる ギザギザ氷
鋭くとんがり
まるで 肉きり包丁のよう



どんどん増える ギザギザ氷
鼻の氷は 槍のよう



だれもが思う これはいったい
なんだろう?
まるでヤマアラシ!



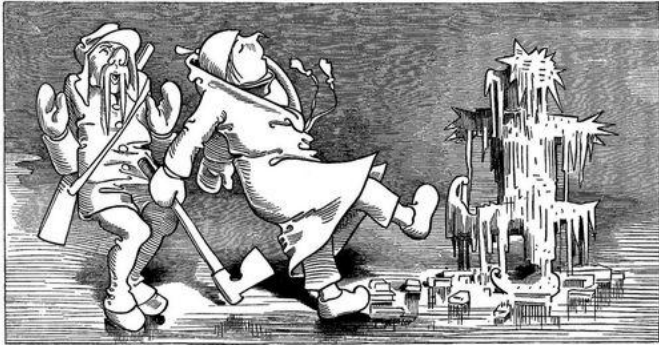
家では時計眺めて「いったいどこにいるんだ ペーターは？」
そこへ森番やって来て、「小僧は氷の上へ、向かったぞ！」



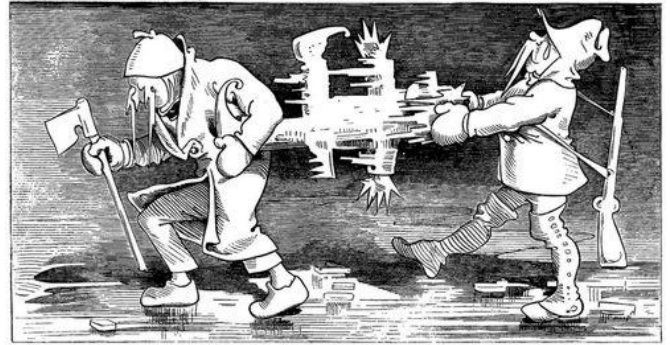
斧をかついで、不安を胸に
雪の中にペーター探す



やがてみつけた 服の切れ端
つのる心配 高まる不安



凍ったペーター発見し 肝をつぶした 驚いた



息子を運び 泣く父さん 涙は端から凍り付く



ペーターを そっとおいたよ あったかいストーブの傍



万歳！ 嬉しいことには 氷が溶けて水になる



おや、なんと！ 子供も一緒に お粥みたいに溶けていく



ぺっちゃんこの哀れなペーター 壺の中へと入れられた



そうなんだ ペーターは この石の壺の中にいる
もとは、しっかりとした男の子
なのに、バターみたいに柔らかくなってしまったのさ

絵とテキスト: ヴィルヘルム・ブッシュ

翻訳: 岡部由紀子

出典: <http://www.zeno.org/nid/20004610520>